

第6回我孫子市新廃棄物処理施設整備運営方式等検討委員会会議録(要旨)

1 開催日時 平成29年12月14日(木)午後13時15分から午後14時00分

2 開催場所 我孫子市役所議会棟AB会議室

3 出席者 (出席委員)

青木委員長、渡辺副委員長、川村委員、大畑委員、古谷委員
(事務局)

環境経済部クリーンセンター 増田課長

環境経済部新廃棄物処理施設建設準備室 伊藤室長、佐野室長補佐、松澤主査

企画財政部資産経営課 長谷川課長、林課長補佐、河合主任

国際航業株式会社 森田、齋藤、伊藤

4 議題 (1)新廃棄物処理施設整備運営方式等検討報告書(案)について

5 その他

6 議事要旨

青木委員長 それでは、第6回目となりました我孫子市新廃棄物処理施設整備運営方式等検討委員会をはじめます。

当初の予定では、前回は最終回と予定していましたが、みなさんのご議論の中で、スケジュールの問題、あるいは人件費の算定の問題等々、いくつか課題が出てきましたので、それを整理して、第6回目を最終回とするということで、前回確認が取れておりますので、今日、第6回目、最終の委員会として開催をしたいと思いますので、議事進行にご協力よろしく願いいたします。

それでは、改めまして、この報告書(案)、特に、変更した点で結構ですので、変更した点、あるいは新たに付け加えた点等、ご説明をお願いします。

---- 議題(1)新廃棄物処理施設整備運営方式等検討報告書(案)について 説明 ----

青木委員長 ありがとうございます。では、ご意見、ご質問があれば、お願いします。

青木委員長 私からいくつか質問いたします。

P1の目的について、本市単独で整備する場合、「施設規模が小さいことによる費用負担の増加」、「焼却量不足により熱回収が困難になる」、「資源化施設の更新や拡張に支障が出る。」の3つ理由があります。この3つ、もう1回説明いただけないでしょうか。なぜ、施設規模が小さいと費用負担が増加するのか。施設規模が小さくなると、スケールメリットが無く、1t当たりの単価が上がるということなら理屈はわかるのですが、施設が小さいと負担が大きくなるというと、単純に読むと変な表現と思えます。

す。

- 事務局 スケールメリットが得られないという意味ですので表現を修正します。
- 青木委員長 焼却量不足だと熱回収が困難になるというのは、我孫子市だけの焼却量、熱量では、熱回収が困難な焼却量、熱量ということでよろしいでしょうか。
- 古谷委員 多くの焼却施設はプラスチックやビニール類を一緒に燃やしてしまう。ところが、我孫子は、分別が徹底されプラスチックやビニール類の回収率が高く、これを燃やして、発電可能なカロリーを得ることができないということを言っているのではないのでしょうか。例えば、越谷市は、発電をメインとしているから、ペットボトルは資源として回収せず焼却する。我孫子の場合は、ペットボトルは、資源として回収しているため、可燃ごみとして、燃やすものが少ない。
- 事務局 当時は、我孫子市の100t 前後の施設規模では、あまり熱回収が効率よくできませんでした。しかし、現在では70tクラスでも発電設備を設置することが多い状況になっております。柏市と共同処理すれば、当然、200t以上の施設になり、200t 以上であれば、共同処理を検討していた当時でも発電を付けている施設が多く、規模が大きくなる程、熱回収効率が良くなるという意味で記載しております。この部分は、「より効率的な施設を目指すため」等の理由で整理します。
- 青木委員長 資源化施設の更新や拡張に支障が出るというのは、施設を改修する時に、施設を停止しなくてはならないため、敷地が大きい程融通が利くという意味でよろしいでしょうか。
- 事務局 過去の検討で、新たな焼却施設を建てるためには、粗大ごみ処理施設の一部を撤去しないと出来ない、新たな土地を探さなければならないという問題があり、焼却施設、粗大ごみ処理施設両方とも、施設を停止させないように新しい施設を2市で作らましようという計画が、当時あったのだと想定されます。
- なお、今回は、既設の用地を使用しますので、一部、クリーンセンターの機能を民間委託するなどの方策が必要となります。
- 青木委員長 わかりました。第5回の検討委員会の中の指摘で、市の人件費を修正するとともに民間事業者の人件費530万円の内容も確認することになっていました。
- 事務局 民間事業者の人件費530万円という金額には市と同様に雇用保険等の金額も入っていますので、同じ条件下で比較できています。
- 青木委員長 第5回の検討委員会から、売電収益が2,000万円程度減りましたが、この減った理由について確認させてください。
- 事務局 当初、詳細整備計画では、平成33年度末から稼動するということを想定し、施設規模、ごみ質を設定していました。これが、34年に1年ずれ込んだことにより、ごみ量、ごみ質が変わり、発電規模が小さくなったことから、20年間の収益が2,000万円程度少なくなりました。
- 古谷委員 平成33年度と平成34年度で、ごみ質は変わるのでしょうか。
- 事務局 詳細整備計画では、過年度の平均に、現在、別回収している、放射能関係の「燃やせないごみ」の一部の焼却量を見込んで推計しています。その量が平成33年度と平成34年度で異なることからごみ質が変わると推計されます。

- 青木委員長 試運転期間が半年あることは、どこかに記述されていますか。事業が1年延期となる説明として、理由を掲載すべきだと思います。
- 川村委員 事業スケジュール表の注釈に入れるのはいかがでしょうか。また、掲載の工事期間には実施設計、本体工事、試運転期間が含まれますので、それが分かるよう記載してください。
- 事務局 追記します。
- 川村委員 柏市と共同処理を見送るとの結論に至った理由を明確に示していただきたい。
- 事務局 過去の議事録等を確認し、追記します。
- 青木委員長 その他、ありますか。
- 青木委員長 この会議の情報公開は、いつ頃できる予定なのでしょう。
- 事務局 議会への説明等を経て、2月上旬には公開したいと考えています。
- 古谷委員 VFMの2%という数字は低いと思うのですが、廃棄物処理施設では、当たり前の数値なのでしょう。通常、百何十億とか二百億規模だったら、私個人的には、大体7%~8%、10%近く出ると思っています。
- 国際航業 他の事例では、もう少しVFMが出るものもあります。本シミュレーションではDBOの建設費縮減率を見込める根拠がないことから建設費用の縮減率は0%で設定しています。また、単なる公設公営方式ではなく、単年度運転委託を比較対象としていることから運転人件費分の縮減は見込めません。なお、落札額が出た後に更なるVFMが得られることはございます。
- 大畑委員 SPCの設立に関して、スケジュール的には、SPCを設立させて、設計工事に入るわけだが、このスケジュールで可能なのか。
- 国際航業 現時点では、平成31年の8月頃に、委員会の方で最優秀提案者を決定し市長の方で落札者を決定していただくこととなります。その後、契約協議という期間を入れ11月に仮契約、仮契約の内容を議案として挙げ、12月の議会で本契約という形を想定しております。落札者である入札参加者との契約協議やSPC設立に要する期間として2.5ヶ月程見込んでおり、SPCの設立期間は確保できると考えています。
- 青木委員長 他に、ありますか。発言は無いものと認めます。
- 報告書は、事務局と委員長で責任を持って、言葉を整理し、誤字脱字等、簡易な訂正は一任させていただきたいと思います。また、報告書の方向性については、案のとおり決定したいと思いますが、いかがでしょうか。
- 委員一同 異議なし。
- 青木委員長 それでは、ご異議ないものと認めまして、この報告案の方向性をこれで決定したいと思います。
- 長期間に渡りまして、委員の皆様ありがとうございました。
- 以上で、第6回の検討委員会を閉会いたします。

以上